

医療被曝手帳への記録のすすめ！

～ 自分の医療被曝を知ることから始めよう！ ～

先週に降った雪の除雪作業のせいなのか、このところの運動不足のせいなのかかわからないが、土曜日から急に腰痛におそわれている。階段をあがるのもつらく杖を頼りに何とか登っているが、次第に痛みもひどくなりついに職場の休みをとって病院で診察してもらった。病院に出かえる前に我が家の大蔵大臣（連れ合い）から、「どうせレントゲン撮るんだから医療被ばく手帳に記録してもらったら！」といわれ、「医療被ばく手帳」なるものを手渡された。診察時、医師に記入を申し出ればX線検査の被ばく線量を記録してもらえるのだそうだ。

X線検査室に案内され、出てきた検査技師にこの手帳を見せ、線量の記入をお願いしたところ快く応じてくれた。今回は腰周辺を4回撮影した。骨盤撮影の場合は1回あたり1.8mSvになるとのことで、4回撮影したので今回の被ばく合計線量は

$$1.8\text{mSv} \times 4\text{回} = 7.2\text{ mSv}$$

となる。ではこの線量がどんな意味を持つのか？ ここからがこの「医療被ばく手帳」の優れているところだ。手帳に記載されているグラフから、1.0 mSvの被曝で10,000人に一人の割合で発ガンリスクを負うことになる。今回の検査で私が負った発ガンリスクは

$$10,000\text{人} \div 7.2\text{ mSv} = 1389\text{人に一人の発ガンリスク}$$

ということになる。ちなみに、一般人の年間線量限度は1.0 mSvなので今回1回の検査で軽くオーバーしたことになる。私が浴びた7.2 mSvのX線の影響を細胞レベルで見してみる。1.0 mSvで細胞の核に1本の放射線が通過する。そのうち30個の細胞中、1個の割合でDNAの2本鎖切断が起きる。2本鎖切断は発ガンの原因になる。7.2 mSvの線量では30個の細胞中、7.2個の割合でDNAの2本鎖切断が起きたことになる。

DNA 2本鎖切断の損傷確率 $7.2 \div 30 = 0.24$ 本

2割4分といえばイチローほどではないにせよ、野球だったらレギュラークラスの打率だ。今回の検査で俺の細胞のDNAが24パーセントの確率で損傷したのか・・・。何だか急に医療被ばくがリアルに迫ってくる。

検査の被ばく線量(皮膚面)
参考値(単位:mGy)

*mGyとmSvの数値のちがいおよび累積線量については高木学校ホームページを参照 <http://takasas.net>

撮影部位	単純撮影	CT
頭	3.5	25～50
前歯パノラマ	0.23	
胸部正面	0.2	15～20
乳房	2.5	
腹部	1.3	25～30
上部消化管(胃透視)	50～100	
下部消化管(注腸)	20～200	
骨盤	1.8	25～30
股関節	1.6	
手	0.04	
膝関節	0.17	
血管造影-IVR(腹部)	500～1,500	
P E T	2.2	
P E T - C T	PETの線量+CTの線量	

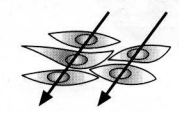
香川県立「医療被ばく説明マニュアルの紹介と活用方法」より抜粋
「日本放射線技術協会雑誌Vol.51, No.621「医療被ばく特号」, 2004

私の医療被ばく記録

名前 神 貴 夫 年 月 日 生

年月日	医療機関・科名	検査部位・方法	被ばく線量	備考
H23 11.28	札幌 すたむくみ	腰椎造影	1.8mSv	11月14日

1 mSvとは？



1 mSvのX線あるいはガンマ線をあびると、身体を構成する細胞の核にそれぞれ1本の放射線が通ることになります。これにより、約30個の細胞に1個の割合で、身体の設計図であるDNAに発がんの原因となる二本鎖切断がおきます。その結果必ずがんになるとはいえませんが、その危険性が増加したことになります。

●医療被ばく記録手帳●

この手帳をより良くするためのご意見・お問い合わせ先
高木学校
〒164-0003 東京都中野区中野1-58-15
原子力資料情報室内
FAX: 03(5330)9530 / Email: info@takasas.net
詳しい情報は <http://takasas.net>
協力/NPO法人近未来生活研究所【2006年10月改訂】

「医療被ばく手帳」を希望の方は、高木学校もしくは神までご相談を！ まだ、残部あります！

「政治に独裁を！」絶叫するアジテーター心理分析」 ～ 精神科医・野田正彰氏による「橋下」分析 ～

大阪府知事・市長のダブル選が終わった。橋下徹新市長、松井一郎新知事の誕生に「やっぱり大阪人は・・・」と思った人も随分といたことだろう。民主化の流れが加速する中、「独裁」を絶叫する首長が選ばれたことを世界はどう評価するのだろうか。歌舞役者も顔負けの選挙パフォーマンス。完全に自己陶醉しきった表情。まぎれもなく彼はアジテーターそのものだった。

折しも、選挙前日の土曜日に野田正彰氏(精神科医)と会う機会があり、橋下徹氏の話題になった。野田氏は週刊新潮に「最も危険な政治家」橋下徹研究の論考を先ごろ掲載している。タイトルはざっくり「大阪府知事は『病気』である」。ではどんな病気なのか。一部を紹介する。野田氏の分析によると橋下氏は

- ・・・・WHOの分類(ICD10)を使えば、「演技性人格障害」と言っていいい・・・

～WHO「演技性人格障害」の症例～

- ① 自己の劇化、演劇的傾向、感情の誇張された表出
- ② 他人に容易に影響を受ける被暗示性
- ③ 浅薄で不安定な感情性
- ④ 興奮、他人の評価、および自分が注目的になるような行動を持続的に追い求めること
- ⑤ 不適當に扇情的な外見や行動をとること
- ⑥ 身体的魅力に必要以上に熱中すること

この症例の内、②以外は全て当てはまるそうである。野田氏は分析にあたって詳細に彼の生い立ちや行動歴を取材したそうである。取材の中で特に印象深かったのが、彼を指導した教師たちの言葉だったそうだ。

「片付け、掃除はしない生徒だった。汚れ仕事は逃げて帰ってしまう。地味なことはいらない。感情交流ができず共感がない。目と目を合わせることができず視線を動かして続ける。嘘を平気でいう。約束を果たせない。人望がまったくなく委員などに選ばれたことはない。相手が傷つくことを平気で言い続ける・・・」

教師が教え子のことをあへだ、こへだと言うのは正直、好きではない。しかし、橋下氏が公人である以上、経歴が色々語られるのは仕方のないことだ。それにしても、先生からここまで酷評されるケースも珍しい。よほどのことがないとここまでは語らないだろう。おそらく現実はこちら以上だったと推測する。

さて、この橋下氏、9月に「教育基本条例案」を提案した。この条例案は教育を政治が完全支配する内容となっており、大阪府の教育委員会ですら猛反発しているものだ。野田氏はこの条例案について、

教師の処分を延々と並べ立てた罰則集であり、こんなことではまともな教師はいなくなり、学校は荒れ、授業すら出来なくなっていくであろう・・・。

橋下氏に鳴り物入りで招かれた陰山英男、小河勝教育委員までも、学校の現実をまったく知らずに書かれた条例案に憤慨し「このまま行けば学校教育すべてが崩壊する」と気付いている・・・。

大阪府民は橋下の空気(本質)に気付いた後に、破壊と損失の前で呆然とすることだろう・・・。

と述べている。百マス計算ですっかり著名になり、橋下氏と大阪の教育改革に乗り出した陰山氏だったが、さすがに橋下氏の異常性に気付いたのだろう。この条例案が可決されれば辞任する意向を表明している。橋下氏と自らの成り上がりを重ね合わせ、権力構造の一端に参加してはみたものの、血なまぐさい政治の世界で生きるほどの器はなく、「辞任」という最後っ屁をするしかない状態だ。結局は利用されて捨てられる運命にある。

原子力問題でも同じような人物がいた。20mSv問題で辞任した小佐古氏。この両者に共通する限界性はどこにあるのか？自らの地位や権力を獲得してきたステージが、結局は相手が用意してくれた土俵の上だったということだ。

独裁者に対抗できるのは個人の力ではない。独裁者が最も恐れるのは組織化された大衆の力だ。大衆の自立的組織化の力を削ぎ、自らの側に引き寄せるカリスマ性によって橋下氏は勝利した。歴史上、最もカリスマ性に優れていたのがヒトラーである。ヒトラーは熱狂(発狂)的な演説で、民主主義体制化のワイマール憲法のもと、総統にまで上りつめた。人々の熱狂は、やがて親衛隊による徹底した監視体制下の狂気に支配されていく。ナチスドイツは他国の侵略、世界大戦、ユダヤ人大量虐殺、そして敗戦、ヒトラー自殺という運命をたどって終焉した。今の橋下氏の言動を見ているとプチヒトラーのように見える。狂気の支配の証の一つ、それが「教育基本条例案」である。